

第1回千葉県資源評価検討会議 会議録

- 1 開催日時 平成27年5月22日(金) 午前10時00分～12時00分
- 2 開催場所 千葉県庁本庁舎16階農林水産部会議室
- 3 出席者 15名(うち構成員3名) ※別紙出席者名簿参照
- 4 検討事項

- (1) 千葉県資源評価基準について
- (2) 千葉県資源評価対象種について
- (3) その他

5 検討事項の概要及び検討の結果

第1回となる会議では事務局から検討会議設立に至った経緯及び趣旨並びに千葉県資源評価検討会議設置要綱を説明した後、千葉県資源評価基準、資源評価対象種等について検討を行った。検討結果は以下のとおり。

(1) 千葉県資源評価基準について

千葉県資源評価検討会議における資源評価基準(案)について、事務局から説明を行い、各項目内容について構成員及び出席者から意見を伺った。

- ・重要資源とする判断基準は?(構成員)
- ・重要性の判断については、指標としては生産量、金額等といったものであり、選定に当たっては上位の魚種あるいは上位でなくても特定地域で重要とされている魚種等を総合的に判断して決定する。(事務局)
- ・資源評価の対象とする水産資源の選定条件について、広域回遊資源のうち、県のみで資源評価が困難な魚種を対象外とする部分の文章表現が難解である。(構成員)
- ・平易な表現を検討する。(事務局)
- ・その他の項目については、資源評価をする基準として妥当である。(構成員)。

(2) 千葉県資源評価対象種について

平成27年度千葉県資源評価対象種(案)について、事務局から各魚種の選定理由の説明を行い、内容について出席者から意見を伺った。

- ・スズキについて、農林水産統計年報以外の情報を水産総合研究センターでどこまで収集、整理しているのか?(議長)

- ・スズキのデータ収集は 10 年ほど前に終了しているので、市場データ等から CPUE を算出できれば資源評価も可能であると考えられる。(水産総合研究センター)
- ・マアナゴの総合判断及び選定要件の情報の分類について、現時点で△(総合判断：平成 28 年以降の資源評価の実施を検討。情報の分類：情報が一部不足。)であるが、年齢構成が単純であること等から資源評価は可能ではないか。(構成員)
- ・マアナゴについては、収集しているデータを整理した上で資源評価が可能か検討したい。(事務局)
- ・クロダイについて、資源評価対象種としての要件を満たしているのではないか？(構成員)
- ・クロダイは、現在は主に遊魚で利用されており、優先度が低いと思われることから対象外としている。(議長)
- ・ホンビノスガイ及びアサリについて、生産量等から資源評価対象としての要件を満たしているのではないか？(構成員)
- ・情報の有無、その他の状況等を調査した上で検討する。(事務局)
- ・評価対象となり得る魚種については、今後も検討していくために評価対象一覧に掲載した方が良い。(構成員)

(3) その他

構成員から他県の資源評価等について事例紹介があった。

- ・資源評価対象種については最初から全ての魚種が検討されていたわけではなく、徐々に増えていった。増えた要因は必要な情報が揃ったことや施策ニーズなど。
- ・資源評価を行った結果、資源管理の取組みが効果ありと認められた魚種は一部の魚種に留まり、大部分の魚種については長期変動から環境要因の影響が大きいとの評価結果となった。

第1回千葉県資源評価検討会議出席者名簿

所 属	役 職	氏 名	備 考
千葉県農林水産部水産局 漁業資源課	課 長	佐藤 喜雄	構成員 (議長)
千葉県水産総合研究センター	次 長 資源研究室長事務取扱	鈴木 広之	構成員
東北大学大学院農学研究科	教 授	片山 知史	構成員
千葉県農林水産部水産局 水産課	主 幹	岩崎 晶知	
銚子水産事務所改良普及課	課 長	宮里 幸司	
館山水産事務所改良普及課	課 長	高山 敬介	
勝浦水産事務所改良普及課	課 長	藤元 香世	
千葉県水産総合研究センター 資源研究室	主席研究員	石井 光廣	
同 上	上席研究員	加藤 正人	
同 上	研 究 員	中丸 徹	
同 上	研 究 員	中川 雄太	
千葉県農林水産部水産局 漁業資源課資源管理班	班 長	永野 歩	事務局
	副 主 査	鈴木 克彰	事務局
	技 師	岡田 峻	事務局
千葉県農林水産部水産局 漁業資源課栽培漁業班	技 師	田村 康	